

登録コード	HM131100	開講年度	2026				
授業題目	血液・臨床腫瘍学特論					担当教員	牧島 秀樹 他
英文授業名	Hematology and Medical Oncology					副担当	神田 慎太郎・中澤 英之
単位数	2	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	
講義室				授業形態	講義	備考	
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素					(授業の達成目標)	
	2026HM医学分野加, 2025HM医学分野加, 2024HM医学分野加, 2023HM医学分野加						
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能					血液腫瘍や固形腫瘍の治療に使用される薬物療法（殺細胞性抗がん薬、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬など）の概要が説明できるようになる。	
(2)詳細 /Detailed information	血液腫瘍や固形腫瘍の治療に使用される薬物療法（殺細胞性抗がん薬、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬など）の薬理作用と期待される効果、副作用						
(3)授業の概要 /Overview of course	本講義では殺細胞性抗がん薬、分子標的薬および免疫チェックポイント阻害剤に関する知識を習得する。						
(4)授業計画 /Course plan	殺細胞性抗がん薬の作用メカニズムと毒性およびその対策（第1回～第5回） 分子標的治療薬の作用メカニズムと毒性およびその対策（第6回～第12回） 免疫チェックポイント阻害剤の作用メカニズムと毒性およびその対策、（第13回～第15回）						
(5)成績評価の方法・基準 /Grading/evaluation method/evaluation criteria	上記3つの項目ごとに小テストと事例を出し面接試験を行う。 各小テストの点数を20点として、事例に対する一次標準治療法の選択や薬剤の効果と毒性を口頭試問形式での成績10点で評価する。最後の口頭試問は20点で評価する。 得点率による評価基準は次の通りにする。90％以上 秀、80 - 89％ 優、70 - 79％ 良、60 - 69％ 可、59％以下 不可						
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	本講義は、最先端の治療法などの話題を学ぶものでなく、系統的に薬物の基礎知識を積み重ねていく形式の授業である。連続した学習が望ましい。						
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	随時質問は受ける。授業中、授業直後あるいは、教室への来室でも対応可能である。来室の場合には、原則事前にアポイントをとること。						
(8)授業の形式 /Course format	PCを用いて講義形式で行う。実際の化学療法室などで治療対象患者の見学・実習を兼ねる場合もある。各講義の内容はお互いに関連性や系統的な内容となるため、準備および復習が必要とする。						